

お盆は、ご先祖様へ感謝の気持ちを伝える大切な夏の伝統行事。三春町では、盆棚の設えや迎え火といった古来の習わしが、新盆の供養とともに、今日まで大切に受け継がれてきました。今月号は、**三春町ならではのお盆の風習**をご紹介します。変わりゆく時代の中で、ご先祖様とのつながりを感じる、三春のお盆の心に触れてみませんか。



三春のお盆

知って、受け継ぐ



菊川屋
内藤 忠さん

お盆はご先祖様を迎え、家族の絆を深めるもの

三春町では、お盆はご先祖様への感謝と家族の絆を深める大切な時期です。お盆の期間は地域によって異なりますが、三春町では月遅れのお盆（8月）が一般的です。特に、故人が亡くなってから初めて迎えるお盆を「新盆」と呼び、通常のお盆よりも手厚く供養を行います。高灯籠を立て、故人をお迎えします。『ああ、あの家は新盆なんだな』と町の人も知る目印となります。

お盆の準備として、各家庭では「盆棚」を作ります。素麺やホトズキなどで飾り付けられた盆棚には、そうめんや季節の野菜・果物、特にナスとキュウリで作られた精霊馬などが供えられます。

また、ご先祖様をお迎えするための「迎え火」も重要な風習。家の前で火を焚き、ご先祖様の霊が迷わず帰ってこられるようにします。お墓参りは13日に行う家庭が多いです。以前

は、お墓に故人の戒名や家紋を入れた「提灯」を飾り、提灯の明かりを頼りにご先祖様を家までお迎えする風習もありました。新盆の際には、特に親しい親族が戒名入りの提灯を贈る習慣がありました。近年は簡略化が進み、提灯代を贈るなど、形を変えつつあります。



化される傾向にあります。しかし、三春町では、ご先祖様を敬い、家族や地域とのつながりを大切にするお盆の精神が今も受け継がれていると感じます。

最近では、生活様式により、お盆の過ごし方も簡略